

2021年6月9日

国土交通大臣 赤羽一嘉 様
国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
白川の安全と立野ダムを考える白川流域住民連絡会 共同代表 松本 久 他4名
代表連絡先 熊本市西区島崎 4-5-13 中島康

白川の流域治水協議のやり直しと 立野ダム建設中止を求める申入書

報道によると2020年9月30日と2021年3月18日、「白川・緑川水系流域治水協議会」が開催され、わずか2回の会合で両河川の「流域治水プロジェクト」は承認されました。

貴職は2021年4月7日の国土交通委員会・流域治水関連法案の質疑で、「ずっとそこに住み、対策を訴え続けてきた地域住民の声を聞いてほしいと求めてきた。住民参加の仕組みをつくるべきでは？」との質問に対して、「協議会のメンバーに地域住民の代表や、地域で防災活動を一生懸命やってきた方々とか歴史をよくわかっている方々に入っていて、その知見をいただき」と答弁しています。

ところが、同流域治水協議会のメンバーは貴省や関係首長など行政関係者だけであり、流域の住民や専門家、防災関係者などは全く含まれませんでした。また、開催日も2日前に記者発表されるだけで、住民は開催後の新聞報道でしか開催を知ることができませんでした。流域治水とは、流域のさまざまな関係者の力を集めて豪雨災害を防ぐ、という考え方です。それならば、流域住民をはじめとする流域の人材もメンバーに加え、広く公開されるべきです。

貴省による2012年の「立野ダム事業検証」では、パブリックコメントの募集や公聴会も開催されました。流域治水と言いながら、住民参加や情報公開という点で貴省の姿勢は大きく後退しています。同流域治水協議会で検討された対策案も具体性に乏しく、数値化されたものでもありませんでした。

2012年の「立野ダム事業検証」で貴省は、立野ダム以外に14の治水対策案を検討し、提示しました。特に、治水対策案⑨「中流部遊水地など」、治水対策案⑩「黒川遊水地（地役権方式）など」、治水対策案⑫「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全など」、治水対策案⑬「輪中堤＋遊水機能を有する土地の保全など」、治水対策案⑭「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全＋土地利用規制など」は、まさに流域治水の考え方そのものを9年も前に白川で具体化したもので、高く評価されるものです。

同流域治水協議会の資料に「田んぼ貯留では、通常の堰板高より10cm高くする」との記述があります。白川流域の水田55平方キロに10cm雨水を余計にため込めば約550万 m^3 の容量があります。それに、「立野ダム事業検証」後の新たな治水対策である、地役権方式の小倉遊水地（88ヘクタール）と手野遊水地（50ヘクタール）を合わせた容量（403万 m^3 ）加えれば、立野ダムの

洪水調節容量 950 万 m^3 を超えます。さらに流域の水田は「ざる田」と言われるように高い浸透能力を持つため、それ以上の水害防止効果があり、また熊本の地下水涵養にもつながります。田んぼ貯留や地役権遊水地は立野ダム建設と比べ、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げるすることができます。

2016 年 4 月の熊本地震では、立野ダム本体予定地及び水没予定地の大半が大規模な斜面崩壊を起こし、周辺では多くの活断層も確認されています。熊本地震の時に立野ダムができていたら、幅 5m しかない立野ダムの穴は流木や土砂、岩石などでふさがり、ダムは埋まり、流域を災害から守るどころか、災害をひき起していたはずで、このような地盤がぜい弱な火山地帯にダムを造って豪雨時に水がたまれば、更なる斜面崩壊が起こるのは明らかです。

私たち住民はこれまで、立野ダム建設に関する公開質問状を 9 回にわたって提出しましたが、貴省は一度も回答せず、ただホームページを読めとのことでした。ホームページに掲載された「回答」を読むと、住民からの質問に対して論点をすり替え、貴省の主張が一方的に書いてあるだけです。また、一般住民を対象とした立野ダム説明会の開催を何度も求めたにもかかわらず、貴省は一度も開催していません。ここに、下記 3 項目を強く要請します。

記

1. 白川の流域治水協議会のメンバーに、流域住民や学識者などをはじめとする流域の人材も加え、流域治水協議会をやり直すこと。
2. 国土交通省が 2012 年の「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際の、14 の治水対策案をすべて流域治水協議会でも検討し、治水効果を数値化すること。
3. 白川の災害対策については、住民の意見を反映したものと、熊本県民に危険をもたらす立野ダム建設を即時中止すること。立野ダムに関し、これまで住民が提出してきた 9 通の公開質問状に対し、論点をすり替えてインターネットで「回答」するのではなく、地域ごとに説明会を開き、質問項目ごとに論点をすり替えずに説明し、住民の不安や疑問を解消すること。

令和 3 年度発注予定工事に記載されている以下 3 項目について明らかにすることを要請します。

1. 立野ダム試験湛水用ゲート製作据付工事（鋼板製プレートガーダー構造角落としスライドゲート W5.0m×H8.93m×3 門、下段スクリーン 1 式、工事規模：6 億 9,000 万円以上 15 億円未満）の位置と高さ、形状などが分かる資料一式
2. 立野ダム貯水地流木補足施設設置工事（鋼製スリット 1 式、コンクリート約 2,500 m^3 、工事規模：2 億円以上 3 億円未満）の位置と高さ、形状などが分かる資料一式
3. 立野ダム貯水地斜面对策工（掘削約 V=35,000 m^3 （土砂、軟岩）、法枠工約 A=2,000 m^2 、工事規模：2 億円以上 3 億円未満）の位置や形状などが分かる資料一式

以上 6 項目について、6 月 14 日以降に立野ダム工事事務所にて説明をお願いします。

以上